



第3回

文字列の表示 (2.1~2.6)

AJ科 宮川 治

プログラムの骨格（おまじない）

- 以下はプログラムの骨格です。今は、おまじないと考えてください。ですが、勉強が進むと、全ての記述内容を理解することができます。

```
public class ClassName※ {  
    public static void main (String[] args){  
        命令文等  
    }  
}
```

※ClassNameは任意の名前に変更する

概要1

■ コーディング規約

- ファイル名に関してはアッパーキャメルケースに従う。ただし.java拡張子を除く。また、数字の区切り文字にはアンダーバー(_)を使用する。

- アッパーキャメルケース: 複合語の先頭を、大文字で書き始める。
- キャメルケース: 複合語の先頭を、小文字で書き始める。単にキャメルケースと言えば先頭は小文字。

概要2

- (アッパー)キャメルケースとは、複合語をひと綴りとして、二つ目以降の要素語の最初を大文字で書き表すこと。複合語の要素数が一つでも下記のルールに従うものとする。
 - 一つ目の要素語の先頭が大文字：アッパーキャメルケース
 - 一つ目の要素語の先頭が小文字：キャメルケース

概要3

- プログラム中のスペース(空白)は区切り文字として使用される。ただし、全角スペースを除く。
- プログラム中の複合語はスペースではなく、以下の3種類が主に使用される。
 - アッパーキャメルケース: 複合語の先頭を、大文字で書き始める。
 - キャメルケース: 複合語の先頭を、小文字で書き始める。
 - スネークケース: アンダーバー(`_`)を区切記号として要素語をつなげる。

概要4

- 内側のブロック中では、命令文の終わりにセミコロン(;)が必要である。
- コンパイル時の文法エラー
- 出力命令文
 - System.out.print → 改行無し
 - System.out.println → 改行有り
- 文字列のリテラル
 - 例: "Hello World"

概要5

■ エスケープ・シーケンス

- 通常の文字列では表せない特殊な文字
- プログラムの中で使用される特殊な文字の表記

設問1

- 括弧対の対応(開き、閉じ)
- キャメルケースの問題(複数)
 - スペースで区切られた複合語を以下のケースで記述する
 - アッパーキャメルケース
 - キャメルケース
 - スネークケース

[設問2]

- コンパイル(コマンドプロンプト)(記述式)
- 実行(コマンドプロンプト)(記述式)
- エスケープ・シーケンス
- インデントミスの弁別